

原 著

大学生の性に関する認識の実態とピアカウンセリングへの期待 — ピアによる性教育ニーズと教育内容の検討 —

忠津佐和代*1 梶原京子*2 篠原ひとみ*3 長尾憲樹*4 進藤貴子*5 新山悦子*1 高谷知美*1

要 約

青年期のヘルスプロモーションの視点から，大学生のピアカウンセリング手法による性教育の必要性と教育内容を検討するため，某大学生858人を対象に自記式質問紙調査を行い，以下の結果を得た．性交経験者は，男性では1年生(62.1%)・2年生(77.1%)・3年生(91.1%)，女性では1年生(41.5%)・2年生(62.4%)・3年生(70.1%)と学年を上がるごとに増加していた．性に関わる問題の第1の相談相手の割合が最も高いのは「友人(73.1%)」であり，性に関わる意識や行動に最も影響を与える第1のものも「友人(45.5%)」であった．性の問題の相談場所がない者が24.0%いた．大学生のピアに対する期待は，具体的な知識に加え，交際相手とのトラブルへの対応や避妊法の具体的な技術指導，ピアカウンセリングが包含する相談しやすい人や秘密の守られる場の提供であった．最も知りたい内容は，21項目中，「性感染症の知識(47.0%)」で，以下2割以上は「男性と女性の心理や行動の違い(46.3%)」，「エイズ(44.8%)」，「愛とは何か(40.5%)」，「緊急避妊法(39.6%)」，「避妊の方法(35.8%)」，「異性との交際のしかた(34.8%)」，「セックス(性交)(29.3%)」，「自分の体について(27.2%)」，「性の人生の意味(26.1%)」，「性欲の処理のしかた(24.9%)」，「思春期の心理(23.6%)」，「性に関する相談機関(22.0%)」の12項目であった．以上から，青年期にある大学生にもピアによる性教育の潜在的・顕在的ニーズがあること，その教育内容として心理的・性行為付随側面のニーズが高くなっていることが窺える．この時期のQOLを実現するため，新入生の時期からピアカウンセリング講座やピアカウンセリングが展開できる場やサポート環境を整えていくことが求められる．

緒 言

1. 研究の背景

近年，性行動の低年齢化・活発化により，10代の人工妊娠中絶実施率および性感染症罹患率の大幅な増加特にHIV/エイズ，クラミジアも若い女性の間で増加しており，社会問題となってきた¹⁻⁴⁾．そこで従来の学校教育での性教育が見直され，高校生に対する「ピアカウンセリング(Peer Counseling)手法による性教育(以下，ピアによる性教育)」が注目され，全国的な広がりをみせつつある⁵⁻¹⁰⁾．そのようななかで，厚生労働省は，2000年「健やか親子21」の主要課題の1つに思春期保健対策の強化と健康教育の推進をあげ，その具体的な取り組みとして，ピアエデュケーション(Peer Education; 仲間教育．以下，PE)およびピアカウンセリング(仲間相談．

以下，PC)などの思春期の子どもが主体となる事業の推進を明記し，提唱している^{11,12)}．一方，1999年の全国的な調査においても性交経験をもつ人は高校生男女24~27%に比し，大学生は男女50~63%と2倍以上多くなっている¹⁾．このように，現在青年期の若者が性の健康問題に最も直面しており，この時期におけるリプロダクティブヘルス(Reproductive health; 性と生殖に関する健康)を推し進めていく上でも，その対策が急がれる．一方，この時期に性意識や性行動に最も影響を与えるのは同世代の仲間・友人であるといわれ¹³⁾，青年期の健康支援システムの1部として，若者と同年代であるピアによる青年期の若者に対する健全な性行動の支援が効果的であることが期待される¹⁴⁾が，現在各大学でこのような健康支援のシステム化は模索の段階である．

これまで，著者らは総合研究「思春期の健康支援

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 *2 福山平成大学 健康スポーツ科学科 *3 秋田大学 医学部 保健学科

*4 川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科 *5 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 臨床心理学科

(連絡先) 忠津佐和代 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

E-Mail: tadatsu@mw.kawasaki-m.ac.jp

システムの構築」において、中学校に出向いて大学院生や大学生のピアエドゥケーターによる性教育、さらにそこから町の保健室につなげて性の正しい知識や技術を自主的に学び、性感染症予防および避妊についてのスキルを身につけ、自己の性を受容し自己決定能力を高め、健全な性行動の発達を支援するシステムの構築を試みている¹⁵⁾。また、県内の保健所の母子保健活動の支援という形で高校生におけるピアカウンセリング手法を用いた思春期講座も試みている^{16,17)}。思春期の若者を対象にしたピアカウンセリング手法を用いた思春期性教育は、全国的普及に向けた研究がなされている¹⁸⁻²²⁾。しかし青年期はより緊急性を要し、思春期とは異なる特色およびニーズをもつと考えられるにもかかわらず、青年期の若者を対象としたピアカウンセリング手法を用いた性教育およびその普及に関する研究は、現在あまり手がつけられていない状況にある。

2. 研究目的

これらのピアカウンセリング手法を用いた思春期性教育の成果をもとに、青年期のヘルスヘルスプロモーションの視点から^{7,8,20)}、大学生に対して最もピアである大学生自身による健全な性行動の支援をするための青年期の性教育プログラムの開発に取り組み、大学における青年期の健康支援システムの構築を図って行きたい。そこで、まず大学生のピアカウンセリング手法による性教育(以下、ピアによる性教育)ニーズおよび特性などを調査し、その必要性とその教育内容などについて検討した。本稿では、ピアによる性教育のニーズ、希望する性教育内容について検討し、若干の知見を得たので報告する。

方 法

1. 調査対象と方法

1.1. 某大学生に対して自記式質問紙調査法を用いて、大学生に対して「ピアによる性教育」ニーズ調査を行った。研究対象に某大学を選んだ理由は、ピアカウンセリングを行うピアカウンセラーを養成しかれたらの活動をスーパーバイズする養成講座活動者があり、まず大学内の学生を対象に青年期のピアカウンセリング講座の実施を検討することを研究目的とするからである。

調査期間は2004年12月6日～2005年1月22日とした。

調査対象は、調査後のピアカウンセリング講座が可能な某大学の1年生～3年生とした。但し、調査回収者に4年生は少なく、1年生が多くなったのは、各学年の必須の講義時間の前・後の調査依頼時に調査票を配布していたため、再履修する4年次生が数人

混じっていたことと各学年同数で調査を予定していたが実習などでできないクラスがあったためである。

分析対象は、有効回答とした795名をまず単純集計し検討した²⁴⁻²⁶⁾。対象者の主な所属学科は福祉系、体育系、看護系、心理系、栄養系その他であった。

本稿ではクロス集計をして男女別・学年別に比較検討するため、そのうち性別と学年別の記入のある784名を取り出し、次に極端に少ない4学年の5名を除き779名を分析対象とした。但し、調査配布数(調査対象者):858,調査票回収数:802(93.5%),単純集計有効回答数:795(99.1%),男女・学年(1～4学年)クロス集計有効回答数:784(97.8%),男女・学年(1～3学年)クロス集計有効回答数:779(97.1%)。

1.2. 倫理的配慮

川崎医療福祉大学倫理委員会の承認(受付番号016)を得た(平成16年9月6日)うえで調査を行った。実施に際しては調査目的・内容を口頭と書面において説明し、自由意志にて同意を得た学生に無記名で行った。回答は統計的に処理して公表するため個人が特定されないこと、本研究以外に使用しないこと、途中答えたくない質問には答えなくてもよいこと、また回答しないことによってもいかなる不利益も生じないことを明記した。回収は個別に密封封筒にして回収箱にて行った。

1.3. 調査内容

調査内容は、属性、PC・PEの認知度およびニーズ・教育形態など、学校での性教育の経験とその効果、ピアに期待すること(自由記述)、将来思考の有無、性結婚の条件、大切に思うもの、性の悩みの相談相手・性に関わる意識や行動の影響因子を与えたもの、性的なことに関する関心・行動、性感染症予防および避妊の実行とその理由、性に関連する知りたい内容、性の問題の相談場所などであった。

1.4. 分析方法

本稿で分析する内容は属性、性交経験の有無、PC・PEのニーズに関するもの、PC・PEに関連する大学生の特性として性の悩みの相談相手・性に関わる意識や行動に影響を与えたもの、性に関連する知りたい内容である。分析方法は、単純集計の後、男女別、学年別(男女の人数が異なるため男女別々の1～3学年)で比較するため779名を対象にクロス集計をし、 χ^2 検定を行い有意差をみた。さらに、性交経験の回答のあった747名で性交経験の有無別に「性交経験あり群」・「性交経験なし群」に分けクロス集計し、 χ^2 検定を行った。但し、周辺度数が10以下のものについてはフィッシャーの直接確立法を用いた。なお、95%の有意確率で有意性を判断し、無回答の者は各分析から除外した。統計処理にはSPSS 14.0

J for Windows を用いた。自由記述問題の回答については、内容分析の経験のある共同研究者とともに内容を分析しカテゴリー化し分類した。カテゴリー化の過程では、内容分析の経験者から指導を受けながら看護専門家の共同研究者3名で個別に行ったものを突き合わせて不一致の部分を検討し、最終的に明らかになったカテゴリー名や分析結果が妥当であることを確認した。

1.5.用語の定義

下記の用語の定義としては様々な論議があるが、本文中で用いる各用語は下記の定義で用いた。

ピアカウンセリング：人間の心の健康に関する知識とともに、アクティブリスニングと問題解決スキルを用いて、年齢、社会的地位、かかえている問題などにおいて立場が同様である人々に、ピアの意識をもって行うカウンセリングである^{20,21)}。

ピアカウンセリング手法による性教育：一般にピアエデュケーションとピアカウンセリング講座があるがここでは後者をさす。すなわちこのピアカウンセリング講座は、ピアカウンセラー1~2名が介入する5~6人の小集団の基本集団をいくつか集めて全体で正しい情報を共感共有しあい、いっしょに考

えながら性=生の自己決定の過程を学んでいく学習スタイルである^{20,21)}。

思春期：学童後期(小学4年生~6年生)=思春期前期)から思春期後期(高校生)までをさす²⁷⁻²⁹⁾。

青年期：18歳ころから22歳ころまで。高校卒業後から大学時代、または高校卒業後から就職して3・4年ころまでをさす²⁷⁻²⁹⁾。

若者：広辞苑では、「年若い人。わこうど。若衆。」とある³⁰⁾ので、限定的でなく一般的に思春期から青年期に含まれる人をさす。

結 果

1.対象者の概要(表1・表2)

本稿の分析対象者は男女の数に違いがみられたが、学年別の男女比には有意差は無かった。平均年齢(無回答を除く)は19.55±1.37,そのうち男性の平均年齢は19.67±1.79,女性の平均年齢は19.50±1.14であった。性交経験の有無の回答者は747名で、性交経験ありは男性169名(71.0%)・女性271名(53.2%)であり、性交経験者は男性が有意に多かった(p<0.001)。さらに、性交経験の有無を性別に分けた学年別で見ると男性学年別および女性学年別ともに有意差

表1 対象者の学年別男女数

	全体		1年生		2年生		3年生		検定
	数	%	数	%	数	%	数	%	
男性	244	31.3	137	34.1	71	25.9	36	35.0	n.s.
女性	535	68.7	265	65.9	203	74.1	67	65.0	
合計	779	100.0	402	100.0	274	100.0	103	100.0	

表2 対象者の男女別性交経験者数

	全体		男性		女性		検定
	数	%	数	%	数	%	
経験あり	440	58.9	169	71.0	271	53.2	***
経験なし	307	41.1	69	29.0	238	46.8	
無回答	32		6		26		
男性							
	1年生		2年生		3年生		検定
	数	%	数	%	数	%	
経験あり	82	62.1	54	77.1	33	91.7	***
経験なし	50	37.9	16	22.9	3	8.3	
無回答	5		1		0		
女性							
	1年生		2年生		3年生		検定
	数	%	数	%	数	%	
経験あり	103	41.5	121	62.4	47	70.1	***
経験なし	145	58.5	73	37.6	20	29.9	
無回答	17		9		0		

(注)表中「経験」は「性交経験」を示す %は無回答を除く ***:P<0.001

がみられた ($p < 0.001$)。すなわち, 男性では1年生 (62.1%)・2年生 (77.1%)・3年生 (91.1%), 女性では1年生 (41.5%)・2年生 (62.4%)・3年生 (70.1%)と性交経験者は学年を上がるごとに増加していた。性交経験別クロス集計では, 性交経験のある者を「性交経験あり群 (以下, 経験あり群)」, 性交経験ないものを「性交経験なし群 (以下, 経験なし群)」として比較した。

2. ピアエデュケーションまたはピアカウンセリングなどについて (表3-1~表3-3)

2.1. 「PEまたはPC」の認知は, 全体で16.6%, 男女別では女性 (21.7%) に多く有意差がみられた ($p < 0.001$)。男女別の学年別では女性の学年別で1年生 (11.0%) に比べて2年生 (30.5%)・3年生 (37.3%) と多く有意差がみられた ($p < 0.001$)。また性交経験別で有意差はなく, 性交経験別の男女別では女性が性交経験あり群 (25.2%)・なし群 (18.5%) とともに多く有意差がみられた ($p < 0.001$)・($p < 0.05$)。

2.2. 「ピアへの関心」は, 全体で62.4%, 男女比では女性 (66.4%) に多く有意差がみられた ($p < 0.001$)。男女別の学年別では男性の学年別で1年生 (48.1%) と3年生 (50.0%) に比し, 2年生 (66.2%) が多く有意差がみられた ($p < 0.05$)。また性交経験別で有意差はなく, 性交経験別の男女比では女性が性交経験あり群 (70.0%)・なし群 (63.9%) とともに多く有意差がみられた ($p < 0.001$)・($p < 0.05$)。

2.3. 「PE・PCの参加希望」は, 全体で53.8%, 男女比, 性別の学年比でも有意差はないが, 性交経験別で性交経験あり群 (58.75%) が有意に多く, 性交経験別の男女比では性交経験あり群の女性 (64.4%) が多く有意差がみられた。

2.4. 「PE・PCの希望形態」は, 全体では3種類の形態の中で「知人の集団 (46.0%)」が最も多かった。男女別, 男女・学年別, 性交経験別, 性交経験・男女別のいずれにおいても有意差はなかった。

2.5. 「学校での性教育経験」は, 全体で97.2%あ

表3-1 ピアエデュケーション・ピアカウンセリングなどについて — 男女別 —

項目		全体(N=779)		男 (N=244)		女 (N=535)		P
		数	%	数	%	数	%	
PE・PCの認知 (n=777) (男n=243, 女n=534)	ある	129	16.6	13	5.3	116	21.7	***
	ない	648	83.4	230	94.7	418	78.3	
	無回答	2		1		1		
ピアへの関心 (n=770) (男n=242, 女n=528)	ある	483	62.4	130	53.7	353	66.4	***
	ない	287	37.6	112	46.3	175	33.6	
	無回答	9		2		7		
PE・PCの参加希望 (n=773) (男n=243, 女n=531)	ある	416	53.8	114	47.1	302	56.9	n.s.
	ない	357	46.2	128	52.9	229	43.1	
	無回答	6		2		4		
PE・PCの希望形態 (N=416) (n=415) (男n=113, 女n=202)	他集団	115	27.7	33	29.2	82	27.2	n.s.
	知集団	191	46.0	58	51.3	133	44.0	
	個別	109	26.3	22	19.5	87	28.8	
	無回答	1		1		0		
学校での性教育経験 (n=778) (男n=244, 女n=533)	ある	756	97.2	230	94.3	526	98.5	n.s.
	ない	22	2.8	14	5.7	8	1.5	
	無回答	1		0		1		
今までに受けた性教育 の役立ち方 (N=756) (n=751) (男n=228, 女n=523)	非常に役立った	83	11.1	30	13.2	53	10.1	*
	比較的役立った	434	57.8	132	57.9	302	57.7	
	あまり役立たなかった	215	28.6	55	24.1	160	30.6	
	全く役立たなかった	19	2.5	11	4.8	8	1.5	
	無回答	5		2		3		
今までに受けた性教育 の授業形態 (N=756) (n=746)	一斉授業	696	93.3					
	グループ授業	46	6.2					
	個別授業	2	0.3					
	その他	2	0.3					
	無回答	10						

(注)「PE」は「ピアエデュケーション」を、「PC」は「ピアカウンセリング」をさす
「他集団」は「他人の集団」を、「知集団」は「知人の集団」をさす
%は無回答を除く。(n)は%の母数を示す ***:P<0.001

*:P<0.05

表3-2 ピアエデュケーション・ピアカウンセリングなどについて — 男性学年別，女性学年別 —

項目		男 (N=244)						P
		1年(N=137)		2年(N=71)		3年(N=36)		
		数	%	数	%	数	%	
PE・PCの認知 (1n=137,2n=70,3n=36)	ある	4	2.9	5	7.1	4	11.1	n.s.
	ない	133	97.1	65	92.9	32	88.9	
	無回答	0		1		0		
ピアへの関心 (1n=135,2n=71,3n=36)	ある	65	48.1	47	66.2	18	50.0	*
	ない	70	51.9	24	33.8	18	50.0	
	無回答	2		0		0		
PE・PCの参加希望 (1n=136,2n=70,3n=36)	ある	59	43.4	36	51.4	19	52.8	n.s.
	ない	77	56.6	34	48.6	17	47.2	
	無回答	1		1		0		
PE・PCの希望形態 (1n=59,2n=36,3n=19)	他集団	18	31.0	12	33.3	3	15.8	n.s.
	知集団	31	53.4	16	44.4	11	57.9	
	個別	9	15.5	8	22.2	5	26.3	
	無回答	1		0		0		
学校での性教育経験 (1n=137,2n=71,3n=36)	ある	129	94.2	67	94.4	34	94.4	n.s.
	ない	8	5.8	4	5.6	2	5.6	
	無回答	0		0		0		
今までに受けた性教育の役立ち方 (N=230) (1n=127,2n=67,3n=34)	非常に役立った	20	15.7	9	13.4	1	2.9	n.s.
	比較的役立った	74	58.3	37	55.2	21	61.8	
	あまり役立たなかった	28	22.0	17	25.4	10	29.4	
	全く役立たなかった	5	3.9	4	6.0	2	5.9	
	無回答	2		0		0		

項目		女 (N=535)						P
		1年(N=265)		2年(N=203)		3年(N=67)		
		数	%	数	%	数	%	
PE・PCの認知 (1n=264,2n=203,3n=67)	ある	29	11.0	62	30.5	25	37.3	***
	ない	235	89.0	141	69.5	42	62.7	
	無回答	1		0		0		
ピアへの関心 (1n=263,2n=202,3n=67)	ある	167	63.5	141	68.8	45	67.2	n.s.
	ない	96	36.5	61	30.2	22	32.8	
	無回答	2		1		0		
PE・PCの参加希望 (1n=263,2n=201,3n=67)	ある	141	53.6	121	58.2	40	59.7	n.s.
	ない	122	46.4	80	39.8	27	40.3	
	無回答	2		2		0		
PE・PCの希望形態 (N=302) (1n=141,2n=121,3n=40)	他集団	45	31.9	28	23.1	9	22.5	n.s.
	知集団	56	39.7	58	47.9	19	47.5	
	個別	40	28.4	35	28.9	12	30.0	
	無回答	0		0		0		
学校での性教育経験 (1n=265,2n=202,3n=67)	ある	260	98.1	200	99.0	66	98.5	n.s.
	ない	5	1.9	2	1.0	1	1.5	
	無回答	0		1		0		
今までに受けた性教育の役立ち方 (N=526) (1n=257,2n=200,3n=66)	非常に役立った	24	9.3	26	13.0	3	4.5	n.s.
	比較的役立った	142	55.3	115	57.5	45	68.2	
	あまり役立たなかった	87	33.9	55	27.5	18	27.3	
	全く役立たなかった	4	1.6	4	2.0	0	0	
	無回答	3		0		0		

(注)「PE」は「ピアエデュケーション」を、「PC」は「ピアカウンセリング」をさす

「他集団」は「他人の集団」を、「知集団」は「知人の集団」をさす

数・%は無回答を除く。(n=)は%の母数を示す ***:P<0.001 *:P<0.05

表3-3 ピアエデュケーション・ピアカウンセリングなどについて — 性交経験別，性交経験・男女別 —

項目		性交経験あり群 (N=440)		性交経験なし群 (N=307)		検定
		数	%	数	%	
PE・PCの認知 (ありn=438,なしn=307)	ある	76	17.4	49	16.0	n.s.
	ない	362	82.6	258	84.0	
	無回答	2		0		
ピアへの関心 (ありn=437,なしn=305)	ある	284	65.0	182	59.7	n.s.
	ない	153	35.0	123	40.3	
	無回答	3		2		
PE・PCの参加希望 (ありn=438,なしn=304)	ある	257	58.7	152	50.0	*
	ない	181	41.3	152	50.0	
	無回答	2		3		
PE・PCの希望形態 (N=409) (ありn=257,なしn=151)	他集団	73	28.4	41	27.2	n.s.
	知集団	122	47.5	66	43.7	
	個別	62	24.1	44	29.1	
	無回答	0		1		
学校での性教育経験 (ありn=440,なしn=307)	ある	427	97.0	302	98.4	n.s.
	ない	13	3.0	5	1.6	
	無回答	0		0		
今までに受けた性教育 の役立ち方 (N=729) (ありn=425,なしn=299)	非常に役立った	61	14.4	19	6.4	***
	比較的役立った	238	56.0	178	59.5	
	あまり役立たなかった	110	25.9	99	33.1	
	全く役立たなかった	16	3.8	3	1.0	
	無回答	2		3		

項目		性交経験あり群 (N=440)				検定	性交経験なし群 (N=307)				検定	
		男 (N=169)		女 (N=271)			男 (N=69)		女 (N=238)			
		数	%	数	%		数	%	数	%		
PE・PCの認知 (あり: 男n=168,女n=270) (なし: 男n=69,女n=238)	ある	8	4.8	68	25.2	***	5	7.2	44	18.5	*	
	ない	160	95.2	202	74.8		64	92.8	194	81.5		
	無回答	1		1			0		0			
ピアへの関心 (あり: 男n=167,女n=270) (なし: 男n=69,女n=236)	ある	95	56.9	189	70.0	**	32	46.4	150	63.6	*	
	ない	72	43.1	81	30.0		37	53.6	86	36.4		
	無回答	2		1			0		2			
PE・PCの参加希望 (あり: 男n=168,女n=270) (なし: 男n=68,女n=236)	ある	83	49.4	174	64.4	**	29	42.6	123	52.1	n.s.	
	ない	85	50.6	96	35.6		39	57.4	113	47.9		
	無回答	1		1			1		2			
PE・PCの希望形態 (ありN=257) (なしN=152)	他集団	24	28.9	49	28.2	n.s.	9	32.1	32	26.0	n.s.	
	知集団	41	49.4	81	46.6			15	53.6	51		41.5
	個別	18	21.7	44	25.3			4	14.3	40		32.5
	無回答	0		0				1		0		
学校での性教育経験 (あり: 男n=169,女n=271) (なし: 男n=69,女n=238)	ある	159	94.1	268	98.9	**	68	98.6	234	98.3	n.s.	
	ない	10	5.9	3	1.1		1	1.4	4	1.7		
	無回答	0		0			0		0			
今までに受けた性教育 の役立ち方 (ありN=427) (なしN=302) (あり: 男n=83,女n=174) (なし: 男n=67,女n=228)	非常に役立った	22	13.9	39	14.6	n.s.	7	10.4	12	5.2	n.s.	
	比較的役立った	89	56.3	149	55.8			41	61.2	137		59.1
	あまり役立たなかった	38	24.1	72	27.0			17	25.4	82		35.3
	全く役立たなかった	9	5.7	7	2.6			2	3.0	1		0.4
	無回答	1		1				1		6		

(注)「PE」は「ピアエデュケーション」を、「PC」は「ピアカウンセリング」をさす

「他集団」は「他人の集団」を、「知集団」は「知人の集団」をさす

数・%は無回答を除く。(n=)は%の母数を示す ***:P<0.001 **:P<0.01 *:P<0.05

り，性交経験別の男女比で性交経験あり群の女性(98.9%)が有意に多かった。

2.6. 「今までに受けた性教育の役立ち方」は，全体では4段階のうちの「非常に役立った」が11.1%と少なく，男女別(p<0.05)と性交経験別(p<0.001)

で有意差がみられた。

2.7. 「最も多かった授業形態」では，「一斉授業」が93.3%と9割以上を占め，「グループ授業」は6.2%と少なかった。

3.ピアに期待すること(表4)

「ピアカウンセリングに期待することについて(自由記述)」の質問調査回答者98人の内容を分析した結果、次の6項目に分類された。大カテゴリーを【 】で、サブカテゴリーを で、元のデータを「 」で記述した。

3.1.【人と場の提供に期待】は、人(ピアを含む)に期待 23人、場の提供 16人、秘密保持 3人で、この項目は1番高率であった。場の提供では、「安心して相談できると感じられる場所づくり」や「誰でも気軽に相談できるような場であってほしいと思う」などの意見が、秘密保持では、「個人情報の守秘」や「プライバシーだけは守ってほしい」、人に期待では、「家族や友達のような人に相談できないことができるという期待がある」や「信頼関係が大事だと思うので、それを大事にしてください」などが、また、「友人同士で性などについて真剣に話し合えるようにしてほしい」「簡単に、友達のように話せること」などの意見が述べられていた。

3.2.【性の知識・技術・対応】は、細かい)知識を身につけたい 16人、技術指導を 8人、対応の仕方を教えて 3人で、2番目に多い項目であった。細かい)知識を身につけたい では、「性に関する知識について教える講義を開いてほしい」や「本やビデオで知識を自分勝手に得る前に、正しい知識を身につけてほしい」、「愛とは何か、人生にとってどんな意味をもつか、また大学生の性事情などを知りたい」などが、技術指導を では、「コンドームの買い方、付け方の指導を」などが、また、対応の仕

方を教えて では、「誰の子を持ったか分からない人に『自分との子よ』と言われた時の対処の仕方」などが、記述されていた。

3.3.【性知識の啓発活動】は、正確な性知識を広めて 7人、ピアの活動に期待 3人、解決のための指導を期待 など2人であった。正確な性知識を広めて では、「必要のない妊娠が増えて中絶する人が増えているので、もっと考えて妊娠をするように働きかけてほしい」や「青少年に正しい性を教えてください」などが、ピアの活動に期待 では、「アピールしてもっと存在を知ってもらいたい」などが、また、解決のための指導を期待 などでは、「同じ問題を抱えた仲間と意見を交換して新たな解決策が出れば良い」などの意見が記述されていた。

3.4.【わからない】は、ピアって何? 8人であった。その内容には、「具体的な活動内容があまりよく分からないので何とも言えない」や「ピアとは何なのか、いまいち分かりません」というものがあった。

3.5.【ピアに関心あり】は、ピアをしたい 3人、活動をPRして 2人であった。ピアをしたい では、「ピアを試してみたい」や「ピアカウンセラーになるための講習を受けたい」などが、活動をPRして では、「あまり良く知らないの、自然と分かるように宣伝したいのをしてほしい」や「どんなものなのか全く分からないので、セミナーなどを開いてもらいたい」などが記述されていた。

3.6.【相談活動】は、相談活動を 4人であった。その内容には、「是非相談活動してもらいたい」や「相談活動の義務化」などが記述されていた。

表4 ピアに期待すること

(自由記述)				
カテゴリー	サブカテゴリー	人数	(計)	%
人と場の提供に期待	場の提供	16	42	42.8
	人に期待	12		
	ピアに期待	11		
	秘密保持	3		
性の知識・技術・対応	知識を身につけたい	11	27	27.6
	技術指導を	8		
	細かい知識を知りたい	5		
	対応の仕方を教えて	3		
性知識の啓発活動	正確な知識を広めて	7	12	12.2
	ピアの活動に期待	3		
	解決のための指導を期待	1		
	個別カウンセリングを期待	1		
わからない	ピアって何?	8	8	8.2
ピアに関心あり	ピアをしたい	3	5	5.1
	ピアアールして	2		
相談活動	相談活動を	4	4	4.1
合計		98	98	100.0

4. 性問題の相談相手として1位に選んだ割合とその理由(表5-1~表5-5)

4.1. 性・男女の関係の悩みの相談相手として1位に選んだ割合は,14項目の中で「友人(71.3%)」が最も多く,次に「母(9.1%)」「恋人(6.2%)」「姉(3.9%)」「先輩(2.2%)」と続いていた。「弟」を選んだ人はいなかった。さらに男性では「妹」「後輩」「先生」を,女性では「父」「祖父母」「親戚」を

1位に上げる人はなく,男女別で有意差($p<0.001$)がみられた。女性の学年別($p<0.05$),性交経験別($p<0.001$),性交経験別あり群の男女別($p<0.001$),性交経験別なし群の男女別($p<0.01$)においても有意差がみられた。

さらに男女の学年別で女性は「母」が1年~3年で12.2%~7.5%となっており,学年が進行するにつれ減少していた。男性は「友人」が1学年(74.8%)

表5-1 性問題の相談相手として1位に選んだ割合 — 男女別 —

項目	全体(n=771)		男(n=242)		女(n=529)		検定
	数	%	数	%	数	%	
父	5	0.6	5	2.1	0	0.0	
母	70	9.1	10	4.1	60	11.3	
兄	5	0.6	4	1.7	1	0.2	
姉	30	3.9	1	0.4	29	5.5	
弟	0	0	0	0.0	0	0.0	
妹	4	0.5	0	0.0	4	0.8	
祖父母	1	0.1	1	0.4	0	0.0	
親戚	1	0.1	1	0.4	0	0.0	***
友人	550	71.3	180	74.4	370	69.9	
先輩	17	2.2	8	3.3	9	1.7	
後輩	1	0.1	0	0.0	1	0.2	
恋人	48	6.2	14	5.8	34	6.4	
先生	2	0.3	0	0.0	2	0.4	
その他	1	0.1	1	0.4	0	0.0	
相談しない	36	4.7	17	7.0	19	3.6	
無回答者	8		2		6		

(注)数・%は無回答を除く。(n=)は%の母数を示す ***:P<0.001

表5-2 性問題の相談相手として1位に選んだ割合 — 男女学年別 —

項目	男						検定	女						検定
	1年		2年		3年			1年		2年		3年		
	数	%	数	%	数	%		数	%	数	%	数	%	
父	4	3.0	1	1.4	0	0.0		0	0.0	0	0.0	0	0.0	
母	3	2.2	6	8.5	1	2.8		32	12.2	23	11.5	5	7.5	
兄	1	0.7	2	2.8	1	2.8		0	0.0	1	0.5	0	0.0	
姉	0	0.0	0	0.0	1	2.8		4	1.5	21	10.5	4	6.0	
弟	0	0.0	0	0.0	0	0.0		0	0.0	0	0.0	0	0.0	
妹	0	0.0	0	0.0	0	0.0		1	0.4	3	1.5	0	0.0	
祖父母	1	0.7	0	0.0	0	0.0		0	0.0	0	0.0	0	0.0	
親戚	1	0.7	0	0.0	0	0.0	n.s.	0	0.0	0	0.0	0	0.0	*
友人	101	74.8	51	71.8	28	77.8		194	74.0	125	62.5	51	76.1	
先輩	6	4.4	1	1.4	1	2.8		7	2.7	1	0.5	1	1.5	
後輩	0	0.0	0	0.0	0	0.0		1	0.4	0	0.0	0	0.0	
恋人	5	3.7	6	8.5	3	8.3		13	5.0	17	8.5	4	6.0	
先生	0	0.0	0	0.0	0	0.0		2	0.8	0	0.0	0	0.0	
その他	0	0.0	1	1.4	0	0.0		0	0.0	0	0.0	0	0.0	
相談しない	13	9.6	3	4.2	1	2.8		8	3.1	9	4.5	2	3.0	
合計	135	100.0	71	100.0	36	100.0		262	100.0	200	100.0	67	100.0	

(注)数・%は無回答を除く。*:P<0.05

表5-3 性問題の相談相手として1位に選んだ割合 — 性交経験別，性交経験・男女別 —

項目	性交経験あり群		性交経験なし群		検定	性交経験あり群 (n=438)				性交経験なし群 (n=305)				検定
	数	%	数	%		男性		女性		男性		女性		
						数	%	数	%	数	%	数	%	
父	2	0.5	3	1		2	1.2	0	0.0	3	4.3	0	0	
母	30	6.8	39	12.8		7	4.2	23	8.5	3	4.3	36	15.3	
兄	5	1.1	0	0		4	2.4	1	0.4	0	0	0	0	
姉	17	3.9	12	3.9		0	0.0	17	6.3	1	1.4	11	4.7	
弟	0	0.0	0	0.0		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
妹	2	0.5	2	0.7		0	0.0	2	0.7	0	0	2	0.8	
祖父母	0	0	1	0.3		0	0.0	0	0.0	1	1.4	0	0	
親戚	1	0.2	0	0	***	1	0.6	0	0.0	0	0	0	0	**
友人	309	70.9	219	71.8		123	73.7	186	68.6	52	75.4	167	70.8	
先輩	9	2.1	7	2.3		6	3.6	3	1.1	2	2.9	5	2.1	
後輩	0	0	1	0.3		0	0.0	0	0.0	0	0	1	0.4	
恋人	45	10.3	3	1		13	7.8	32	11.8	1	1.4	2	0.8	
先生	1	0.2	1	0.3		0	0.0	1	0.4	0	0	1	0.4	
その他	0	0	1	0.3		0	0.0	0	0.0	1	1.4	0	0	
相談しない	17	3.9	16	5.2		11	6.6	6	2.2	5	7.2	11	4.7	
合計	438	100.0	305	100.0		167	100.0	271	100.0	69	100.0	236	100.0	

(注) 数・%は無回答を除く。 ***:P<0.001 **:P<0.01

表5-4 性問題の相談相手として1位に選んだ理由 — 男女別 —

項目	全体(n=750)		男(n=231)		女(n=519)		検定
	数	%	数	%	数	%	
信頼	435	58.0	121	52.4	314	60.5	
いつも一緒	182	24.3	60	26	122	23.5	
知識が豊富	38	5.1	16	6.9	22	4.2	n.s.
経験が豊富	33	4.4	11	4.8	22	4.2	
その他	62	8.3	23	10	39	7.5	
無回答	29		13		16		

(注) %は無回答を除く。(n=)は%の母数を示す

表5-5 性問題の相談相手として1位に選んだ理由 — 性交経験別，性交経験・男女別 —

項目	経験あり群 (n=430)		経験なし群 (n=296)		検定	性交経験あり群 (n=430)				性交経験なし群 (n=296)				検定	
	数	%	数	%		男性		女性		男性		女性			
						数	%	数	%	数	%	数	%		
信頼	246	57.2	174	58.8		86	53.8	160	59.3	33	50	141	61.3		
いつも一緒	108	25.1	66	22.3		41	25.6	67	24.8	16	24.2	50	21.7		
知識が豊富	18	4.2	19	6.4	n.s.	9	5.6	9	3.3	n.s.	7	10.6	12	5.2	n.s.
経験が豊富	23	5.3	10	3.4		7	4.4	16	5.9		4	6.1	6	2.6	
その他	35	8.1	27	9.1		17	10.6	18	6.7		6	9.1	21	9.1	
無回答	10		11			9		1			3		8		

(注) %は無回答を除く。(n=)は%の母数を示す

～3学年(77.8%)と学年を問わず多く、それ以外に10%以上を占めるものがなかった。

4.2. 性・男女の関係の悩みの相談相手として1位に選んだ理由は、「信頼しているから(58.0%)」・「いつも一緒にいるから(24.3%)」で8割以上を占めていた。男女別、性交経験別、性交経験別男女比

においても有意差は認められなかった。

5. 性意識や行動に一番影響を与えたもの(表6) 性に関わる意識や行動に一番影響を与えたと思うもので最も多かったのは「友人(45.5%)」で、次に「テレビ・ラジオ(11.1%)」!「学校の授業(9.6%)」!「マンガ(6.7%)」と続いていた。男女別(p<0.001)、性交

表6 性意識や行動に一番影響を与えたもの — 男女別,性交経験別,性交経験・男女別 —

	全体		男性		女性		検定
	数	%	数	%	数	%	
親	32	4.2	4	1.7	28	5.4	
兄弟姉妹	9	1.2	5	2.1	4	0.8	
友人	345	45.5	114	47.7	231	44.5	
先輩	21	2.8	16	6.7	5	1.0	
教師	8	1.1	4	1.7	4	0.8	
学校の授業	73	9.6	10	4.2	63	12.1	
新聞や雑誌の記事	39	5.1	9	3.8	30	5.8	***
マンガ	51	6.7	11	4.6	40	7.7	
その他の本	16	2.1	11	4.6	5	1.0	
テレビ・ラジオ	84	11.1	17	7.1	67	12.9	
ビデオ	30	4.0	25	10.4	5	1.0	
インターネット	7	0.9	7	2.9	0	0.0	
その他	16	2.1	3	1.3	13	2.5	
特にない	27	3.6	3	1.3	24	4.6	
合計	758	100.0	239	100.0	519	100.0	

	男 (n=239)						女 (n=519)						検定
	1年		2年		3年		1年		2年		3年		
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	
親	2	1.5	1	1.4	1	2.9	12	4.7	13	6.6	3	4.5	
兄弟姉妹	4	3.0	1	1.4	0	0.0	0	0.0	4	2.0	0	0.0	
友人	63	47.0	38	54.3	13	37.1	112	44.0	91	46.0	28	42.4	
先輩	9	6.7	3	4.3	4	11.4	3	1.2	1	0.5	1	1.5	
教師	2	1.5	1	1.4	1	2.9	1	0.4	2	1.0	1	1.5	
学校の授業	3	2.2	6	8.6	1	2.9	29	11.4	29	14.6	5	7.6	
新聞や雑誌の記事	4	3.0	3	4.3	2	5.7	14	5.5	9	4.5	7	10.6	n.s.
マンガ	5	3.7	3	4.3	3	8.6	20	7.8	18	9.1	2	3.0	
その他の本	7	5.2	1	1.4	3	8.6	1	0.4	1	0.5	3	4.5	
テレビ・ラジオ	7	5.2	5	7.1	5	14.3	40	15.7	17	8.6	10	15.2	
ビデオ	18	13.4	5	7.1	2	5.7	5	2.0	0	0.0	0	0.0	
インターネット	6	4.5	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
その他	2	1.5	1	1.4	0	0.0	6	2.4	6	3.0	1	1.5	
特にない	2	1.5	1	1.4	0	0.0	12	4.7	7	3.5	5	7.6	
合計	134	100.0	70	100.0	35	100.0	255	100.0	198	100.0	66	100.0	

	性交経験あり群		性交経験なし群		性交経験あり群(n=433)				性交経験なし群(n=305)				検定		
					男性		女性		男性		女性				
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%			
親	10	2.3	21	6.9	2	1.2	8	3.0	1	1.5	20	8.4			
兄弟姉妹	5	1.2	4	1.3	2	1.2	3	1.1	3	4.4	1	0.4			
友人	219	50.6	117	38.4	84	50.6	135	50.6	28	41.2	89	37.6			
先輩	16	3.7	5	1.6	14	8.4	2	0.7	2	2.9	3	1.3			
教師	5	1.2	3	1.0	3	1.8	2	0.7	1	1.5	2	0.8			
学校の授業	31	7.2	41	13.4	7	4.2	24	9.0	3	4.4	38	16.0			
新聞や雑誌の記事	23	5.3	15	4.9	***	6	3.6	17	6.4	***	3	4.4	12	5.1	***
マンガ	24	5.5	24	7.9		7	4.2	17	6.4		4	5.9	20	8.4	
その他の本	10	2.3	6	2.0		7	4.2	3	1.1		4	5.9	2	0.8	
テレビ・ラジオ	40	9.2	42	13.8		9	5.4	31	11.6		7	10.3	35	14.8	
ビデオ	20	4.6	9	3.0		18	10.8	2	0.7		7	10.3	2	0.8	
インターネット	4	0.9	3	1.0		4	2.4	0	0.0		3	4.4	0	0.0	
その他	13	3.0	3	1.0		3	1.8	10	3.7		0	0	3	1.3	
特にない	13	3.0	12	3.9		0	0	13	4.9		2	2.9	10	4.2	
合計	433	100.0	305	100.0		166	100.0	267	100.0		68	100.0	237	100.0	

(注) 数・%は無回答を除く。(n=)は%の母数を示す ***:P<0.001 **:P<0.01 *:P<0.05

経験別($p < 0.001$),性交経験別の男女比($p < 0.001$)において有意差がみられた。男女間では「学校の授業」は男性(4.2%)に対して女性(12.1%),「先輩」は男性(6.7%)に対して女性(1.0%),「ビデオ」は男性(10.4%)に対して女性(1.0%)と相違が見られた。性交経験別では「親」は経験あり(2.3%)に対して経験なし(6.9%),「友人」は経験あり(50.6%)に対して経験なし(38.4%),「学校の授業」では経験あり(7.2%)に対して経験なし(13.4%),「テレビ・ラジオ」は経験あり(9.2%)に対して経験なし(13.8%)と相違が見られた。性交経験あり群の男女間では「先輩」は男性(8.4%)に対して女性(0.7%),「学校の授業」は男性(4.2%)に対して女性(9.0%),「テレビ・ラジオ」は男性(5.4%)に対して女性(11.6%),「ビデオ」は男性(10.8%)に対して女性(0.7%)と相違がみられた。性交経験なし群の男女比では「親」は男性(1.5%)に対して女性(8.4%),「学校の授業」は男性(4.4%)に対して女性(16.0%),「その他の本」は男性(5.9%)に対して女性(0.8%),「テレビ・ラジオ」は男性(10.3%)に対して女性(14.8%),「ビデオ」は男性(10.3%)に対して女性(0.8%)と相違がみられた。

6. 性に関する知りたい内容(複数回答)(表7-1, 表7-2)

現在,性に関係することで21項目中最も知りたいものは「性感染症の知識(47.0%)」で,以下2割以上のものをあげると「男性と女性の心理や行動の違い(46.3%)」,「エイズ(44.8%)」,「愛とは何か(40.5%)」,「緊急避妊法(39.6%)」,「避妊の方法(35.8%)」,「異性との交際のしかた(34.8%)」,「セックス(性交)(29.3%)」,「自分の体について(27.2%)」,「性の人生の意味(26.1%)」,「性欲の処理のしかた(24.9%)」,「思春期の心理(23.6%)」,「性に関する相談機関(22.0%)」の12項目が挙げられた。

男女別で有意差のみられた項目は9項目,すなわち「性器のつくりと働き($p < 0.001$)」,「初経($p < 0.05$)」,「精通($p < 0.05$)」,「二次性徴($p < 0.01$)」,「エイズ($p < 0.05$)」,「性欲の処理のしかた($p < 0.001$)」,「男性と女性の役割($p < 0.05$)」の7項目は男性が有意に多く,「緊急避妊法($p < 0.001$)」,「性的被害の相談機関($p < 0.05$)」の2項目は女性が有意に多かった。

男性の学年別で有意差のみられたのは6項目,すなわち「精通($p < 0.05$)」,「エイズ($p < 0.05$)」,「自分の体について($p < 0.05$)」,「性的被害の相談機関($p < 0.01$)」,「思春期の心理($p < 0.01$)」,「性の人生の意味($p < 0.01$)」であった。女性の学年別で有意差のみられたのは3項目,すなわち「性的被害の相談機関($p < 0.05$)」,「愛とは何か($p < 0.01$)」,「性の人生の意

味($p < 0.05$)」であった。性交経験別で有意差のみられたのは「性欲の処理のしかた($p < 0.05$)」,「男性と女性の心理や行動の違い($p < 0.05$)」の2項目で経験あり群が有意に多かった。性交経験あり群の男女別で有意差のみられたのは6項目,すなわち「性器のつくりと働き($p < 0.001$)」,「初経($p < 0.05$)」,「エイズ($p < 0.05$)」,「性欲の処理のしかた($p < 0.01$)」の4項目は男性が有意に多く,「緊急避妊法($p < 0.001$)」,「性的被害の相談機関($p < 0.01$)」の2項目は女性が有意に多かった。性交経験なし群の男女別で有意差のみられたのは「性器のつくりと働き($p < 0.001$)」,「性欲の処理のしかた($p < 0.001$)」の2項目で男性が有意に多かった。

次に,学年が進行すれば上昇するものは,男性では「避妊の方法」,「性感染症の知識」,「エイズ」,「男性と女性の心理や行動の違い」,「性の人生の意味」の5項目,女性では「緊急避妊法」,「性感染症の知識」,「男性と女性の心理や行動の違い」の3項目であった。学年が進行すれば下降するものは,男性に多く,女性では「性器のつくりと働き」,「精通」,「二次性徴」,「避妊の方法」,「性的被害の相談機関」の5項目であった。2学年で最高率を示し3学年で1学年未満の割合になるものは,男性では「性器のつくりと働き」,「初経」,「精通」,「生命誕生」,「救急避妊法」,「性欲の処理のしかた」,「自分の身体について」,「思春期の心理」,「男性と女性の役割」の9項目で,女性では「初経」,「生命誕生」,「セックス」,「エイズ」,「性に関する相談機関」,「男性との交際のしかた」,「男性と女性の役割」,「愛とは何か」の8項目であった。2学年で最高率を示し3学年で1学年超の割合になるものは,男性では「二次性徴」,「セックス」,「性に関する相談機関」,「性的被害の相談機関」,「異性との交際のしかた」の5項目で,女性では「性欲の処理のしかた」,「自分の体について」,「性の人生の意味」の3項目であった。その他の傾向として,2学年が最低率を示すが3学年で1学年より上昇するものに男性の「愛とは何か」があり,2学年が最低率を示すが3学年で1学年より下降するものに女性の「思春期の心理」があった。また,男女別で経験あり群となし群を比較すると,5%異常の差があるものの中で,男性で性交あり群が高いものは「生命誕生」,「男性と女性の心理や行動の違い」,「愛とは何か」の3項目,性交なし群が高いものは「自分の身体について」の1項目であり,女性で性交あり群が高いものは「緊急避妊法」,「性欲の処理のしかた」,「性に関する相談機関」,「性的被害の相談機関」,「男性と女性の心理や行動の違い」,「性の人生の意味」の6項目で,性交なし群が高いも

表7-1 性に関する知りたい内容 — 男女別，男女学年別 —

項目	(複数回答)						検定							
	全体 (n=724)		男 (n=233)		女 (n=491)									
	数	%	数	%	数	%								
性器のつくりと働き	71	9.8	43	18.5	28	5.7	***							
初経(月経)	90	12.4	40	17.2	50	10.2	*							
精通(射精)	47	6.5	22	9.4	25	5.1	*							
二次性徴	5	7.0	26	11.2	25	5.1	**							
生命誕生(受精・妊娠・出産)	117	16.2	46	19.7	71	14.5	n.s.							
セックス(性交)	212	29.3	78	33.5	134	27.3	n.s.							
避妊の方法	259	35.8	86	36.9	173	35.2	n.s.							
緊急避妊法	287	39.6	69	29.6	218	44.4	***							
性感染症の知識	340	47.0	112	48.1	228	46.4	n.s.							
エイズ	324	44.8	120	51.5	204	41.5	*							
性欲の処理のしかた	180	24.9	88	37.8	92	18.7	***							
自分の身体について	197	27.2	61	26.2	136	27.7	n.s.							
性に関する相談機関	159	22.0	42	18	117	23.8	n.s.							
性的被害の相談機関	116	16.0	26	11.2	90	18.3	*							
思春期の心理	171	23.6	62	26.6	109	22.2	n.s.							
男性と女性の心理や行動の違い	335	46.3	115	49.4	220	44.8	n.s.							
異性との交際のしかた	252	34.8	87	37.8	165	33.6	n.s.							
男性と女性の役割	114	15.7	47	20.2	67	13.6	*							
愛とは何か	293	40.5	100	42.9	193	39.3	n.s.							
性の人生の意味	189	26.1	65	27.9	124	25.3	n.s.							
その他	10	1.4	4	1.7	6	1.2	n.s.							
特に知りたいことはない	63	8.7	16	6.9	47	9.6	n.s.							
項目	男						検定	女						検定
	1年(n=131)		2年(n=67)		3年(n=35)			1年(n=239)		2年(n=185)		3年(n=67)		
	数	%	数	%	数	%		数	%	数	%	数	%	
性器のつくりと働き	26	19.8	15	22.4	2	5.7	n.s.	17	7.1	9	4.9	2	3.0	n.s.
初経(月経)	22	16.8	15	22.4	3	8.6	n.s.	22	9.2	25	13.5	3	4.5	n.s.
精通(射精)	9	6.9	12	17.9	1	2.9	*	15	6.3	10	5.4	0	0.0	n.s.
二次性徴	11	8.4	12	17.9	3	8.6	n.s.	16	6.7	8	4.3	1	1.5	n.s.
生命誕生(受精・妊娠・出産)	23	17.6	17	25.4	6	17.1	n.s.	33	13.8	32	17.3	6	9.0	n.s.
セックス(性交)	41	31.3	25	37.3	12	34.3	n.s.	61	25.5	57	30.8	16	23.9	n.s.
避妊の方法	46	35.1	25	37.3	15	42.9	n.s.	91	38.1	65	35.1	17	25.4	n.s.
緊急避妊法	38	29	21	31.3	10	28.6	n.s.	103	43.1	84	45.4	31	46.3	n.s.
性感染症の知識	60	45.8	33	49.3	19	54.3	n.s.	107	44.8	87	47.0	34	50.7	n.s.
エイズ	58	44.3	39	58.2	23	65.7	*	102	42.7	81	43.8	21	31.3	n.s.
性欲の処理のしかた	47	35.9	30	44.8	11	31.4	n.s.	42	17.6	37	20.0	13	19.4	n.s.
自分の身体について	31	23.7	25	37.3	5	14.3	*	62	25.9	54	29.2	20	29.2	n.s.
性に関する相談機関	18	13.7	17	25.4	7	20.0	n.s.	57	23.8	48	25.9	12	17.9	n.s.
性的被害の相談機関	7	5.3	13	19.4	6	17.1	**	49	20.5	36	19.5	5	7.5	*
思春期の心理	30	22.9	27	40.3	5	14.3	**	57	23.8	38	20.5	14	20.9	n.s.
男性と女性の心理や行動の違い	60	45.8	36	53.7	19	54.3	n.s.	97	40.6	88	47.6	35	52.2	n.s.
異性との交際のしかた	45	34.4	28	41.8	14	40.0	n.s.	76	31.8	70	37.8	19	28.4	n.s.
男性と女性の役割	23	17.6	18	26.9	6	17.1	n.s.	31	13.0	28	15.1	8	11.9	n.s.
愛とは何か	55	42	27	40.3	18	51.4	n.s.	86	36.0	88	47.6	19	28.4	**
性の人生の意味	27	20.6	22	32.8	16	45.7	**	48	20.1	56	30.3	20	29.9	*
その他	1	0.8	3	4.5	0	0.0	n.s.	4	1.7	0	0.0	2	3.0	n.s.
特に知りたいことはない	8	6.1	5	7.5	3	8.6	n.s.	27	11.3	15	8.1	5	7.5	n.s.

(注) 数・%は無回答を除く。

(n=)は%の母数を示す

***:P<0.001

** :P<0.01

* :P<0.05

表7-2 性に関する知りたい内容 — 性交経験別，性交経験・男女別 —

項目	(複数回答)														
	性交経験あり群 (n=424)		性交経験なし群 (n=291)		検定	性交経験あり群				性交経験なし群				検定	
	数	%	数	%		男 (n=163)		女 (n=261)		男 (n=67)		女 (n=224)			
					数	%	数	%	数	%	数	%			
性器のつくりと働き	42	9.9	29	10.0	n.s.	28	17.2	14	5.4	***	15	22.4	14	6.3	***
初経(月経)	54	12.7	36	12.4	n.s.	29	17.8	25	9.6	*	11	16.4	25	11.2	n.s.
精通(射精)	28	6.6	19	6.5	n.s.	15	9.2	13	5.0	n.s.	7	10.4	12	5.4	n.s.
二次性徴	35	8.3	16	5.5	n.s.	19	11.7	16	6.1	n.s.	7	10.4	9	4.0	n.s.
生命誕生(受精・妊娠・出産)	78	18.4	38	13.1	n.s.	36	22.1	42	16.1	n.s.	10	14.9	28	12.5	n.s.
セックス(性交)	130	30.7	81	27.8	n.s.	53	32.5	77	29.5	n.s.	25	37.3	56	25.0	n.s.
避妊の方法	152	35.8	106	36.4	n.s.	61	37.4	91	34.9	n.s.	24	35.8	82	36.6	n.s.
緊急避妊法	179	42.2	107	36.8	n.s.	51	31.3	128	49.0	***	18	26.9	89	39.7	n.s.
性感染症の知識	210	49.5	128	44.0	n.s.	81	49.7	129	49.4	n.s.	30	44.8	98	43.8	n.s.
エイズ	192	45.3	131	45.0	n.s.	87	53.4	105	40.2	*	33	49.3	98	43.8	n.s.
性欲の処理のしかた	121	28.5	58	19.9	*	60	36.8	61	23.4	**	27	40.3	31	13.8	***
自分の身体について	117	27.6	79	27.1	n.s.	40	24.5	77	29.5	n.s.	21	31.3	58	25.9	n.s.
性に関する相談機関	101	23.8	56	19.2	n.s.	30	18.4	71	27.2	n.s.	12	17.9	44	19.6	n.s.
性的被害の相談機関	72	17.0	44	15.1	n.s.	17	10.4	55	21.1	**	9	13.4	35	15.6	n.s.
思春期の心理	98	23.1	71	24.4	n.s.	44	27.0	54	20.7	n.s.	18	26.9	53	23.7	n.s.
男性と女性の心理や行動の違い	215	50.7	119	40.9	*	86	52.8	129	49.4	n.s.	29	43.3	90	40.2	n.s.
異性との交際のしかた	144	34.0	107	36.8	n.s.	60	36.8	84	32.2	n.s.	27	40.3	80	35.7	n.s.
男性と女性の役割	74	17.5	39	13.4	n.s.	34	20.9	40	15.3	n.s.	13	19.4	26	11.6	n.s.
愛とは何か	171	40.3	118	40.5	n.s.	72	44.2	99	37.9	n.s.	26	38.8	92	41.1	n.s.
性の人生の意味	122	28.8	66	22.7	n.s.	48	29.4	74	28.4	n.s.	16	23.9	50	22.3	n.s.
その他	8	1.9	2	7.0	n.s.	3	1.8	5	1.9	n.s.	1	1.5	1	0.4	n.s.
特に知りたいことはない	33	7.8	27	9.3	n.s.	11	6.7	22	8.4	n.s.	4	6.0	23	10.3	n.s.

(注) 数・%は無回答を除く。(n=)は%の母数を示す ***:P<0.001 **:P<0.01 *:P<0.05

のはなかった。

7. 性の問題を相談する場所 (表8)

性の問題について相談できると思う場所・機関で8項目中最も多いのは「病院(49.8%)」次に「電話相談(23.9%)」,「大学の健康管理センター(17.4%)」と続いていた。「なし」も24.0%挙がっていた。男女別では、「病院」で女性(52.5%)に多く、「その他」で男性(6.8%)に多く2項目で有意差がみられた(p<0.05)・(p<0.01)。男性の学年別では「市町村保健(福祉)センター」の1項目(p<0.05),性交経験別で「大学の健康管理センター」で男性(14.7%)に多く(p<0.05),性交経験あり群の男女別では「病院」で女性(54.7%)が多く、「その他」で男性(8.6%)が多くともに有意差がみられた(p<0.05)・(p<0.01)。

考 察

青年期のヘルスプロモーションの視点から,性の健康問題に直面する大学生のピアカウンセリング手法による性教育の必要性とその教育内容について,調査結果の順を追って「第5回青少年の性行動全国調査報告(1999年11月~調査)(以下,「1999年全国調査」)¹⁾」,「同大学における1年生の調査(2001年7月実施)(以下,「2001年1年生調査」)^{13,27)}」,本調査

とほぼ同時期に調査を行っている全国規模の「第2回男女の生活と意識に関する調査報告書(2004年10月調査)以下,「2004年全国規模調査」)²⁸⁾に同様の調査項目のあるものについては比較しながら考察する。ただし,本調査(2004年12月~)の対象がほぼ19歳~21歳であるため,「1999年全国調査」分類が中・高・大学生で行われているその大学生のデータと,「2004年全国規模調査」は年齢別集計が16~19歳,20~24歳となっているので両方併記して比較検討する。

1. 性交経験の学年変化の割合と実践に役立つ性教育の必要性

今回の調査結果から性交経験者は男性では1年生の6割強から3年生には9割強を占め,女性では1年生の4割強から3年生の7割と学年を上がるごとに確実に増加していた。「2001年1年生調査」^{13,27)}では男性53.0%・女性43.9%であり,今回の調査では3年前に比べ,1年生の女性は同レベルあるが男性では約9ポイント増加していた。また「2004年全国規模調査」²⁸⁾では男性16~19歳(23.4%)・20~24歳(62.8%),女性16~19歳(29.1%)・20~24歳(60.9%)であり,高校生から大学生になると経験者が大幅に増えることが予測される。特に本調査ではこの全国調査を上回っており,今後さらに各学年時の性交経

表8 性の問題を相談する場所 — 男女別, 性交経験別, 性交経験・男女別 —

(複数回答)															
項目	全体 (n=729)		男 (n=234)		女 (n=495)		検定								
	数	%	数	%	数	%		男		女		検定			
項目	1年(n=134)		2年(n=66)		3年(n=34)		検定	1年(n=244)		2年(n=185)		3年(n=66)		検定	
	数	%	数	%	数	%		数	%	数	%	数	%		
大学の健康管理センター	127	17.4	39	16.7	88	17.8	n.s.								
保健所	58	8.0	25	10.7	33	6.7	n.s.								
市町村保健(福祉)センター	32	4.4	14	6.0	18	3.6	n.s.								
病院	363	49.8	103	44.0	260	52.5	*								
警察	15	2.1	5	2.1	10	2.0	n.s.								
電話相談	174	23.9	47	20.1	127	25.7	n.s.								
なし	175	24.0	64	27.4	111	22.4	n.s.								
その他	28	3.8	16	6.8	12	2.4	**								
項目	性交経験あり群 (n=421)		性交経験なし群 (n=294)		性交経験あり群 (n=163)		性交経験なし群 (n=258)		性交経験あり群 (n=67)		性交経験なし群 (n=227)		検定		
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%			
大学の健康管理センター	62	14.7	64	21.8	*	28	17.2	34	13.2	n.s.	11	16.4	53	23.3	n.s.
保健所	34	8.1	23	7.8	n.s.	17	10.4	17	6.6	n.s.	8	11.9	15	6.6	n.s.
市町村保健(福祉)センター	16	3.8	16	5.4	n.s.	10	6.1	6	2.3	n.s.	4	6.0	12	5.3	n.s.
病院	211	50.1	145	49.3	n.s.	70	42.9	141	54.7	*	30	44.8	115	50.7	n.s.
警察	9	2.1	6	2.0	n.s.	3	1.8	6	2.3	n.s.	2	3.0	4	1.8	n.s.
電話相談	101	24.0	70	23.8	n.s.	31	19.0	70	27.1	n.s.	16	23.9	54	23.8	n.s.
なし	98	23.3	73	24.8	n.s.	46	28.2	52	20.2	n.s.	17	25.4	56	24.7	n.s.
その他	21	5.0	7	2.4	n.s.	14	8.6	7	2.7	**	2	3.0	5	2.2	n.s.

(注) 数・%は無回答を除く。(n=)は%の母数を示す

**: $P < 0.01$ *: $P < 0.05$

験者が増加することが推測される。そこで青年期のヘルスプロモーションの視点から、性交時のリスクとしての望まない妊娠や性感染を防ぐ方法を考え、主体的に予防行動が実践できるために、学校教育としては最後の機会である大学生の少しでも早い時期に、できれば新入生の時期から正しい情報やスキルを手に入れ、自己決定能力を高めておくことが大切である^{20,21)}と考える。

2. ピアエデュケーション(PE)およびピアカウンセリング(PC)などについて

「PE または PC の認知」に関しては、全体としては知名度が 2 割弱と低いが、性交経験に関係なく女性の認知が有意に高いことが分かった。また女性は 1 年生 1 割強に比べて 2 年生 3 割強・3 年生 4 割弱

と有意に多く学年が上がるごとに高くなっていった。それらの要因としては、ピアカウンセラーの養成講座を終了した学生を含むピアカウンセリング講座活動者が学生の中に女性のみ約 10 名いたこと、および 9 割以上女性が占める看護学科の 2 年生の講義で紹介したことも関連していることが推測される。一方、ピアとはピアカウセリングの知識や技術をもって活動を行っている人であるという説明付きの「ピアへの関心」は全体で 6 割強と過半数を占めており、女性が性交経験の有無にかかわらず 6 割強から 7 割と有意に高いこと、男性の中では 2 年生が 7 割弱と高いことが分かった。また直接的な「PE・PC 参加希望」では 5 割強の人が参加を希望しており、性交経験ありの人に 6 割弱と有意に希望が高く、経験あ

り群の中でも女性が6割強、なし群の女性も5割強と有意に参加希望が高かった。これらのことから、某大学の学生を対象に青年期のピアカウンセリング講座の実施を検討することが本研究目的であるが、知名度を上げるためにPE・PCの理解を得る十分な啓発活動を行えば、女性および2年生男性を筆頭になりに参加を見込めることが示唆される。

次に「PE・PCの希望形態」では、個人や知らない人たちより知っている人たちの集団で話す形態の希望が5割弱と最も多いことが分かったが、岡崎らの調査³³⁾でも希望する教育方法として「グループで話し合いながら」の要望が出されていた。ピアカウンセリング講座受講生の募集時あるいは講座でのグルーピング時に知人集団であることを考慮するとともに、知人同士であれば特にピアカウンセリング講座内で知りえた個人情報の守秘義務を守るよう配慮することが求められる。

「学校での性教育経験」は9割7分あり、ほとんどの学校で実施されていることが確認できた。その中で「今までに受けてきた性教育の役立ち方」は、全体では4段階のうちの「非常に役に立つ」者が1割強と少ないが、その中では男性および性交経験のある人が有意に多かった。これらのことから、対象者のニーズにあった実践に役立つ内容が少なかったこと、その中でも活用したい者は必死に学習内容を想起したことが窺える。服部ら(18~22歳女性, 2005年調査³⁴⁾)においても、学校での性教育に対して満足度は比較的高い結果が得られているが、役立ちの程度は比べ満足度に比べ低い結果であったことが報告されている。渡邊ら(男女大学生の調査, 2002~2003年調査³⁵⁾)においても「役に立っている」とした人は約3割であったと報告している。また学校での性教育の授業形態では、「一斉授業」が9割以上を占めていたことが確認されたが、このような授業形態では主体的な行動変容は起こりにくく、若者の性行動の改善がないまま社会問題化していると考えられる。性の自己決定をする準備段階としての他者理解や自己選択のための思考過程を学ぶために、また役立つスキルを身につけるためのグループワークおよびグループディスカッションのできるグループ形態をもつピアカウンセリング講座^{20,21)}の導入の必要性が示唆される。

3. 性問題の相談相手として1位に選んだ割合とその理由について

性・男女の関係の悩みの相談相手として14項目の中で「友人」が全体で7割強と最も多く、後は1割以下であるが「母」、「恋人」、「姉」、「先輩」と続いていた。相談相手として1位に選ばれなかった続柄

は、男女ともで「弟」を、男性では「妹」、「後輩」、「先生」を、女性では「父」、「祖父母」、「親戚」であった。男女別、女性の学年別、性交経験別、性交経験別あり群の男女別、性交経験別なし群の男女別で選択の割合に有意に相違があることが分かった。また有意差はないが、男女学年別では学年が進行するにつれ「母」を選択する人は減少しており、それに対して男性が学年を問わず「友人」に集中している傾向が見られた。これらのことから、相対的に家族の影響特に母親の影響は、男性より女性に、性交ありの人より性交経験なしの人、特に女性に強いが、学年進行とともに薄れ、男女とも家族親族より友人が第1の相談相手になることが窺えた。一方、友人を選んだ1年生の割合を比較すると「2001年1年生調査」^{13,27)}(男性72.5%・女性59.7%)に対して本調査1年生(男性74.8%・女性74.0%)であり、3年前と比較して男性は同レベルであるが女性は14.3ポイントとかなり挙がっており、男女差なく高くなってきている。また同調査では性に関する悩みのある者は47.0%(男女有意差なし)と半数近くとなっていた。このことから、性・男女の関係の悩みは1年の段階で約半数の人にあることが予測され、その相談相手として「友人」が最も受け入れられやすいことが明らかとなった。

次に、性・男女の関係の悩みの相談相手として1位に選んだ理由としては、「信頼しているから(6割弱)」、「いつも一緒にいるから(2割強)」で8割以上を占めており、相談相手の種類は違っていてもこの2つの理由は同じであることが推測できた。大学生にとって特に信頼できる人がそばにいてくれると相談相手となり、それが友人であることが多いことが確認できた。そのため、大学生のピアカウンセラーとしては友人に近い同年齢の学生が最適であることが示唆される。

4. 性意識や行動に一番影響を与えたもの

性に関わる意識や行動に一番影響を与えたと思うものとして、テレビ・ラジオ、学校の授業、マンガを抜いて、「友人」が5割弱(男性47.7%・女性44.5%、男性1年生47.0%・女性1年生44.0%)と最も多いことが明らかとなった。他の調査「1999年全国調査」¹⁾の大学生(男性40.5%・女性35.1%)と比較すると、本調査のほうが男女ともに、特に女性が7.4ポイント増えていた。また「2001年1年生調査」^{13,27)}では男性1年生(49.0%)・女性1年生(56.4%)と本調査より男女とも特に女性が12.4ポイント多くなっていた。3調査の結果から、「友人」が他の項目に対して最も影響を与えていることが確認された。また、男女別、性交経験別、性交経験別の男女比において有

意差がみられ影響を受けるものに相違があることが明らかとなった。男女間では女性は「学校の授業」、男性は「先輩」や「ビデオ」から影響を受けていることが、性交経験別では経験なしの人が「親」・「学校の授業」・「テレビ・ラジオ」、経験ありの人が特に「友人」から影響を受けていること、性交経験あり群の男女間では男性が「先輩」・「ビデオ」、女性が「学校の授業」・「テレビ・ラジオ」から影響を受けていくこと、性交経験なし群の男女比では女性が「親」・「学校の授業」・「テレビ・ラジオ」、男性が「その他の本」・「ビデオ」から相対的に強く影響を受けていることが分かった。すなわち、性交経験の有無に関係なく女性は「学校の授業」・「テレビ・ラジオ」、男性は「ビデオ」にも影響を受けていることが推測された。性教育をおこなう場合に、これらの属性の影響源の特性にも配慮した効果的な講師の選択・教材の選択が求められる。

一方、服部らの調査³⁴⁾では「信頼性が高い情報源」(複数回答)として「学校での性教育」は7割を超えていたが、「友人や先輩」の情報は3割と少なかった。しかし「現在の自分の性行動に役立っていると思う情報源」(複数回答)としては「友人や先輩からの情報(49.7%)」が「学校での性教育(45.6%)」よりやや高い結果となっていた。このことから、情報を与える者として、最も影響を受けやすい友人に近い年代の者が適切であるが、それだけではなくその者の情報源としての信頼性を高めておくことが必要であると考えられる。

5. ピアに期待すること

「ピアに期待すること」の記述回答の内容分析から、「分からない」とするものが1割弱あったが、今までに全く聴いたことがない人は調査依頼時の口頭や依頼文上のピアおよびその活動の簡単な説明ではイメージがつかめなかったためだと推測される。大学生のピアに対して、具体的な知識に加え、交際相手とのトラブルへの対応や避妊法の具体的な技術指導、およびピアカウンセリングを含めて相談しやすい人や秘密も守ってもらえる場の提供を期待していることなどが明らかになった。このことから、大学生の性の相談に対して集団または個別に、知識のみでなく具体的な解決に向けて話しあうことができる「ピアカウンセリング講座」や「ピアカウンセリングルーム」などの開設が望ましく考えられる。そのためまずは大学内のコンセンサスを得て、それらが開設でき全面的に展開できる場やピアのサポート環境を整えていくこと⁸⁾が関連機関に求められる。

6. 性に関する知りたい内容

青年期(大学生)の性教育を考える上でまず大事な

ことは、かれらが性に関して何を知りたいかを捉えることである。彼らが知りたい性教育の内容は、生理学的側面、性行為付随側面、心理的側面、社会的側面に分類⁴⁾すると、調査21項目中最も知りたいものは性行為付随側面である「性感染症の知識(5割弱)」であった。ちなみにこの項目は「1999年全国調査」¹⁾(大学生男性45.2%・同女性60.3%)、「2001年1年生調査」^{13,27)}(男性39.8%・女性42.1%)と同様に高い値となっていた。このことは、性的関心が高まるとともに身近な問題としての性感染症への不安が高まるからだと推測される。2割以上のものでは生理学的側面である「自分の体について(3割弱)」・「思春期の心理(2割強)」の2項目、性行為付随側面である「エイズ(5割弱)」・「緊急避妊法(4割弱)」・「避妊の方法(4割弱)」・「セックス(性交)(3割弱)」の4項目、心理的側面である「男性と女性の心理や行動の違い(5割弱)」・「愛とは何か(4割強)」・「異性との交際のしかた(3割強)」・「性の人生の意味(3割弱)」・「性欲の処理のしかた(2割強)」・「性に関する相談機関(2割強)」の6項目を合わせて12項目が挙っていた。これらのことから、性的関心が高まるとともに他者に対する精神的な関心も高まり、中学や高校で学習率の少ない性行為に付随する具体的な情報や人生の中での性の意味や愛についておよび他者理解の方法などの心理的側面のニーズが高くなっていることが窺える。このことは青年期の最大の発達課題である自己同一性の確立に向けた安定した女性性や男性性の確立、対人関係の安定化につながる健全な志向が成されていると考えられる。

さらに、男女別で有意差のみられた項目は9項目で、「性器のつくりと働き」・「初経」・「精通」・「二次性徴」・「エイズ」・「性欲の処理のしかた」・「男性と女性の役割」の7項目は男性が多く、「緊急避妊法」・「性的被害の相談機関」の2項目は女性が多く、関心度の性差が明らかとなった。男性の学年別で有意差のみられたのは「精通」・「エイズ」・「自分の身体について」・「性的被害の相談機関」・「思春期の心理」・「性の人生の意味」の6項目であり、女性の学年別で有意差のみられたのは「性的被害の相談機関」・「愛とは何か」・「性の人生の意味」の3項目であり、性別の学年比でも関心の違いが明らかとなった。性交経験別で有意差のみられたのは「性欲の処理のしかた」・「男性と女性の心理や行動の違い」の2項目で経験あり群が多く、性交経験あり群の男女別で有意差のみられたのは6項目で、「性器のつくりと働き」・「初経」・「エイズ」・「性欲の処理のしかた」の4項目は男性が多く、「緊急避妊法」・「性的被害の相談機関」の2項目は女性が多く、また性交経験なし群

の男女別で有意差のみられたのは「性器のつくりと働き」・「性欲の処理のしかた」の2項目で男性が多かった。性交経験別でも男女別および学年別とは異なる関心が示されたことから、性交経験の有無にも配慮した教育内容が必要であることが確認された。

一方、学年が進行すれば上昇するものは男性では「避妊の方法」・「性感染症の知識」・「エイズ」・「男性と女性の心理や行動の違い」・「性の人生の意味」の5項目、女性では「緊急避妊法」・「性感染症の知識」・「男性と女性の心理や行動の違い」の3項目であり、3学年を通して必要性が深まるものであり、大学生の性教育テーマとして重要なものであると考えられる。その他の傾向として学年が進行すれば下降するもの、2学年で最高率を示すものなどが明らかになった。さらに、男女別で経験あり群となし群に注目すると、男性で性交あり群が高いものは「生命誕生」・「男性と女性の心理や行動の違い」・「愛とは何か」の3項目、性交なし群が高いものは「自分の身体について」の1項目であったが、このことから経験あり群は他者に、なし群は自己に関心が向けられていることが推測された。女性で性交あり群が高いものは「緊急避妊法」・「性欲の処理のしかた」・「性に関する相談機関」・「性的被害の相談機関」・「男性と女性の心理や行動の違い」・「性の人生の意味」の6項目で、性交なし群が高いものはなかったが、このことから、女性は性交経験に伴うリスクが大きいためそれを回避するための知識や技術および性を含む人生のあり方を知りたいというニーズが強くなることが窺えた。これらのことから、性行動におけるクリティカルシンキングや情報リテラシーの促進を図り、性=性の自己決定能力を高めていく性教育の内容が重要であると考えられる。

7. 性の問題の相談場所

性の問題について相談できると思うおもな場所・機関は「病院」・「電話相談」・「大学の健康管理センター」の3箇所であり、また相談する場所がないとする人が2割以上おり、彼らの相談できる場所を確保していく必要があることが推測された。やはり性教

育と同様、正確な情報をもった若者による相談場所を、大学内にあり実現可能性が高い「大学の健康管理センター」に併設することが望ましいと考えられる。

以上から、青年期にある大学生にもピアによる性教育の潜在的・顕在的ニーズがあること、その教育内容として心理的・性行為付随側面のニーズが高くなっていることが窺える。また大学生は高校生に比して今後さらに性交経験者が増加することが予測されることから、青年期のヘルスプロモーションの視点に立って、新生の早い時期から性交時のリスクとしての望まない妊娠や性感染を防ぐ方法を考え、主体的に予防行動が実践できる性=性の自己決定能力を高めておくことが求められる。そしてそのためには、性行動におけるクリティカルシンキングや情報リテラシーの促進を図り、性=性の自己決定能力を高めていく性教育の内容と方法の転換が重要であると考えられる。そしてこれらの効果が期待できる教育として「ピアによる性教育」が望ましく、ピアカウンセリング講座やピアカウンセリングルームを全面的に展開できる場やサポート環境を整えていくことが求められる。

8. 今後の課題

本稿では、調査結果の1部である「性に関連する知りたいこと」からピアカウンセリング講座の教育内容についても検討したが、次稿においてさらに大学生の将来設計・結婚の条件、性行動などの特性の調査結果からさらに深く教育内容と方法・考慮すべきことについて検討していきたい。

今回の調査では男女別、学年別、性交経験別で比較してみることができた。研究の限界としては1大学だけの調査であったため、他の全国的な調査と比較検討したが、分類方法が異なり、特に異なる調査内容の結果については一般化できていない。今後調査大学を増やし一般化して行きたい。

本研究は平成16年度川崎医療福祉大学総合研究の助成を得て行われた研究である。調査にご協力いただいた皆様には深謝いたします。なお、第6回日本看護科学学会および第10回日本地域看護学会に調査結果の一部を報告した。

文 献

- 1) 日本性教育協会 編：「若者の性」白書 第5回青少年の性行動全国調査報告書。小学館，東京，8-13，2001。
- 2) 厚生労働省統計情報部：「平成12年母体保護統計報告」。2000。
- 3) 日本性教育協会 編：青少年の性行動。日本教育協会，東京，2000。
- 4) 松本清一 監修，高村寿子 編著：性：セクシュアリティの看護。初版，建ぼう社，東京，43-81，2001。
- 5) 高村寿子：性の自己決定能力を育てるピアカウンセリングとは。現代性教育研究月報，16(5)，1-5，1998。
- 6) 松本清一 監修，高村寿子 編著：性の自己決定能力を育てるピアカウンセリング。第1版，小学館，東京，86-118，1999。
- 7) 高村寿子 編著：思春期の性の健康を支えるピアカウンセリング・マニュアル ピアカウンセラー（学生）版。小学館，

- 東京, 108-127, 70-147, 2005 .
- 8) 高村寿子 編著: 思春期の性の健康を支えるピアカウンセリング・マニュアル ピアカウンセラー養成者・コーディネータ(調整役)版. 小学館, 東京, 2005 .
 - 9) Vincent J. D Andrea, Peter Salovey: Peer Counseling Skills, *Ethics and Perspectives*. SBB, California, 1996 .
 - 10) Hainere CS, Culhane JF, Balsley CM, Legos P: Teaching sexuality education and using non-traditional teaching strategies. *Journal of School Health*, **6**(4), 140-144, 1996 .
 - 11) 健やか親子21検討会: 健やか親子21検討会報告書—母子保健の2020までの国民運動計画. 2000 .
 - 12) 厚生統計協会: 国民衛生の動向2001年. 第1版, 厚生統計協会, 東京, 143-145, 2001 .
 - 13) 忠津佐和代, 長瀬尚子, 藤原望: 思春期の性教育ニーズの検討(1) — 教育内容と教育者 — . 川崎医療福祉学会誌, **1**(2), 635-638, 2006 .
 - 14) Approaches to Adolescent Health and Development: principal for success, WHO/ADH, 1992 .
 - 15) 忠津佐和代, 津島ひろ江, 池田理恵, 竹永愛子: ピアカウンセリング手法を用いた思春期性教育とその実践. 川崎医療福祉学会誌, **1**(2), 259-270, 2002 .
 - 16) 忠津佐和代, 松尾八重子, 篠原ひとみ, 田中みゆき, 伊藤祥子, 池田知美, 植松愛, 坂口広記, 村山夢乃, 大出好信: ピアカウンセリング手法を用いた思春期性教育の実践とその効果 — 真庭保健所管内において — . 思春期保健相談員学術研究大会, 30, 2003 .
 - 17) 忠津佐和代: ピアカウンセリング手法を用いた思春期性教育の実践とその評価 — 真庭保健所管内において — . 日本看護科学学会学術集会講演集, 543, 2003 .
 - 18) 大嶺ふじ子, 浜本磯江, 小渡清江, 宮城万里子, 砂川洋子, 杉下知子: 高校生の性知識・性意識を高めるためのピア・エデュケーションの研究. 日本看護科学学会誌, **1**(3), 64-73, 1999 .
 - 19) 荒木田美香子, 川口智香, 栗田美千里: 地域保健が取り持つ大学と高校の連携 — ピアエデュケーションによる性教育 — . 保健の科学, **4**(5), 362-366, 2001 .
 - 20) 高村寿子 編著: 思春期の性の健康を支えるピアカウンセリング・マニュアル ピアカウンセラー(学生)版. 小学館, 東京, 10-35, 2005 .
 - 21) 高村寿子 編著: 思春期の性の健康を支えるピアカウンセリング・マニュアル ピアカウンセラー養成者・コーディネータ(調整役)版. 小学館, 東京, 10-30, 2005 .
 - 22) 大家さとみ, 栗原淳: 性教育におけるピアエデュケーションの短期的効果 — 高等学校での性教育の実践を通して — . 学校保健研究, **4**8, 32-45, 2006 .
 - 23) ノラペンダー 著, 小西恵美子 監訳: ヘルスプロモーション看護論 (Nora J Pender, HEALTH PROMOTION in NURSING PRACTICE Third Edition): 日本看護協会出版会, 東京, 1997 .
 - 24) 忠津佐和代, 梶原京子: ピアカウンセリング手法による性教育ニーズの検討① — 大学生を対象として — . 日本地域看護学会第9回学術集会講演集, 60, 2006 .
 - 25) 忠津佐和代, 梶原京子: ピアカウンセリング手法による性教育ニーズの検討② — 大学生を対象として — . 第26回日本看護科学学会学術集会講演集, 381, 2006 .
 - 26) 梶原京子, 忠津佐和代: ピアカウンセリング手法による性教育ニーズの検討③ — 大学生を対象として — . 第26回日本看護科学学会学術集会講演集, 381, 2006 .
 - 27) 服部祥子: 生涯人間発達論 ~ 人間への深い理解と愛情を育むために ~ . 医学書院, 東京, 69-89, 2000 .
 - 28) 下山晴彦, 丹野義彦 編: 講座 臨床心理学5 発達臨床心理学, 東京大学出版会, 東京, 122-149, 2001 .
 - 29) 松本清一 監修, 高村寿子 編著: 性: セクシュアリティの看護. 初版, 建ぼう社, 東京, 54-66, 2001 .
 - 30) 新村出 編: 広辞苑 第5版. 岩波書店, 東京. 2865, 1998 .
 - 31) 忠津佐和代, 藤原望, 長瀬尚子: 思春期の性教育ニーズの検討(2) — 避妊教育と教育の場 — . 川崎医療福祉学会誌, **1**(2), 639-644, 2006 .
 - 32) 性に関する知識 意識 行動について 第2回男女の生活と意識に関する調査報告書. 日本家族計画協会, 東京, 2005 .
 - 33) 岡崎愉加, 高田鼓, 池上香織, 上村茂仁: 高校生の避妊に関する性教育ニーズ—男女の比較. 母性衛生, **4**(3): 174, 2005 .
 - 34) 服部由佳, 鈴木ひとみ, 菱田知代, 川井八重, 畑下博世: 若年女性(学生)に対する効果的な性教育について 性に関する意識, 行動, 受けた性教育からの考察. 保健師ジャーナル, **6**(5), 456-463, 2007 .

- 35) 渡邊紀子, 石崎トモイ, 池田かよ子: 大学生の性の実態と今後の性教育のあり方 — 大学生が受けてきた性教育, 性に関する悩み, 知識や意識, 対処行動の調査から — . 思春期学, 22(4), 547-554, 2004 .

(平成19年10月31日受理)

A Study of College Students Concerns about Sexual Matters and Their Expectations from Peer Counselors

Sawayo TADATSU, Kyoko KAJIWARA, Hitomi SHINOHARA, Noriki NAGAO,
Takako SHINDO, Etsuko NIIYAMA and Tomomi TAKAYA

(Accepted Oct. 31, 2007)

Key words : youth, college student, sex education, peer counseling, peer education

Abstract

A self-administered questionnaire was given to 858 college students to examine the necessity for and the content of sex education using peer counseling. The results showed that among females, 41.5% (N=103) of first year, 62.4% (N=121) of second year, and 70.1% (N=47) of third year students had experienced sexual intercourse. Among males, the percentages were 62.1 (N=82), 77.1 (N=54) and 91.1 (N=33) for first, second and third year students, respectively. A progressive increase was found. The survey also showed that the main supporter in sexual matters was a 'friend (73.1%)'. Moreover, the person who had the greatest influence in sexual considerations and actions was a 'friend (45.5%)'. The peer counselors were expected to provide : Appropriate knowledge, specific technical guidance on contraception methods, and contact concerning the problem with the sexual partner. The counselor was also expected to be discreet, easy to talk to, and sessions held at an appropriate site. Among 21 items, the content cited most of ten was 'sexually transmitted disease (47.0%)'. Twelve items were cited 20% or more times, and the need to educate students on the psychological character of sexual activity was mentioned many times. These findings suggested that young college students have potential to help and many are apparently in need of sex education by peer counselors.

Correspondence to : Sawayo TADATSU

Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare

Kawasaki University of Medical Welfare

Kurashiki, 701-0193, Japan

E-Mail: tadatsu@mw.kawasaki-m.ac.jp

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.17, No.2, 2008 313-331)